

第4回 幼稚園再編に係る地域協議会(なばた幼稚園)

日 時： 令和3年7月8日(木)

午後3時から

場 所： なばた幼稚園リズム室

次 第

1 こども園化のシミュレーション

2 「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」で示された再編案(以下「原案」という。)に対する追加意見の共有について

①未就園児の集いによるご意見

②幼稚園再編について意見を出し合う会について

3 「幼稚園再編・こども園化についての意見書」について

配布資料

【資料1】 こども園化のシミュレーション

【資料2】 「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」で示された再編案に対して提出された意見

【資料3】 幼稚園再編・こども園化についての意見書(案)

なばた幼稚園・壱分幼稚園 こども園化のシミュレーション

令和3年7月 8日 なばた幼稚園地域協議会

令和3年7月19日 壱分幼稚園地域協議会

現状と課題

○公立幼稚園の園児数の減少に伴い、少人数の園では、集団の中で多様な考え方にふれ、試行錯誤する機会が少なくなりやすく、人間関係においても固定化しやすくなる傾向にある。

幼児が互いに関わりを深めながら集団での活動を展開し、協調性を身につけるためには、幼稚園における統合やこども園化による園児数の確保が必要

(「今後の生駒市立幼稚園のあり方について」)

○公立幼稚園での「預かり保育」事業、ご利用者の増加
R3年度から、夏休み期間中も実施

利用実態に即した体制づくりが必要

再編しこども園化

生駒市の子どもの人口

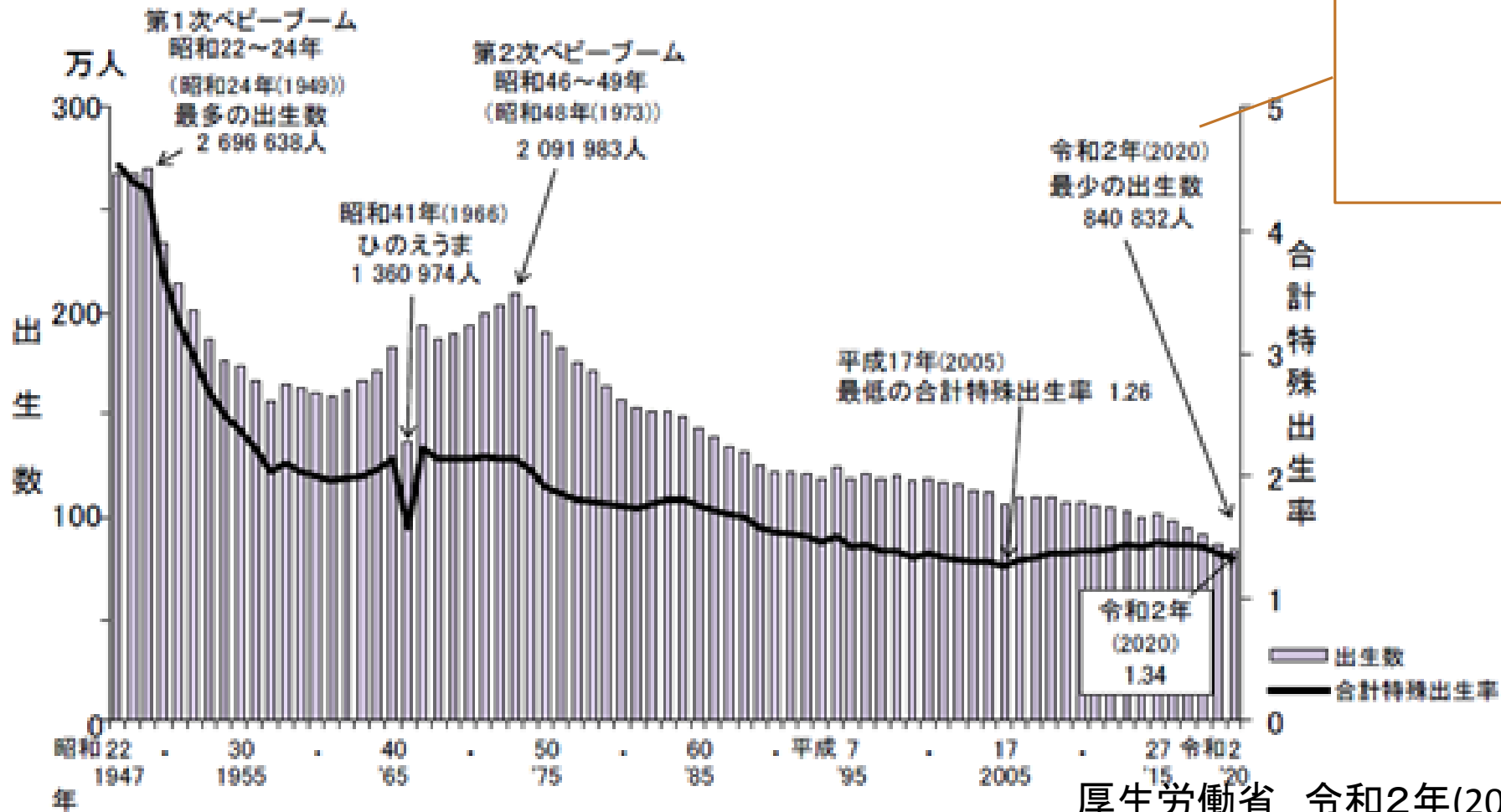
令和3年4月1日現在(人)

年齢	男	女	合計
0歳	340	331	671
1歳	422	396	818
2歳	461	437	898
3歳	462	408	870
4歳	530	483	1,013
5歳	563	507	1,070
6歳	539	510	1,049

2,387人

2,953人

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



令和2年(2020)

最少の出生数

840,832人

前年(R元年)の

865,239人より

24,407人減少

園児数推計

R4年度3歳児以降は、R元年に行った推計

年度	園名	3歳児		4歳児		5歳児		小計	合計
R2	なばた	11	42	23	52	18	54	52	148
	壱分	31		29		36		96	
R3	なばた	15	32	12	43	22	55	49	130
	壱分	17		31		33		81	
R4	なばた	18	43	15	32	12	43	45	118
	壱分	25		17		31		73	
R5	なばた	18	42	18	43	15	32	51	117
	壱分	24		25		17		66	
R6	なばた	16	38	16	38	18	43	50	119
	壱分	22		22		25		69	
R7	なばた	16	38	16	38	16	38	48	114
	壱分	22		22		22		66	

園児数推計の算出の方法

- 1 令和3年度までは、実績数(5月1日時点の在籍園児数)
- 2 令和4年度 5歳児数 令和3年度の4歳児数
4歳児数 令和3年度の3歳児数
3歳児数 令和元年度の2歳児の人口に就園率を乗じる(※)
- 3 令和5年度 5歳児数 令和4年度の4歳児数
4歳児数 令和元年度の2歳児の人口に就園率を乗じる(※)
3歳児数 令和元年度の1歳児の人口に就園率を乗じる(※)
- 4 令和6年度 5歳児数 令和元年度の2歳児の人口に就園率を乗じる(※)
4歳児数 令和元年度の1歳児の人口に就園率を乗じる(※)
3歳児数 令和元年度の0歳児の人口に就園率を乗じる(※)
- 5 令和7年度 5歳児数 令和元年度の1歳児の人口に就園率を乗じる(※)
4歳児数 令和元年度の0歳児の人口に就園率を乗じる(※)
3歳児数 4歳児と同数

(※)「今後の生駒市立幼稚園のあり方について」評価シートより

なばた幼稚園・壱分幼稚園の施設

なばた幼稚園

	保育室数(使用数R3)
1 保育室	9室(3室)
2 リズム室	1室
3 職員室(兼 保健室)	1室

壱分幼稚園

	保育室数(使用数R3)
1 保育室	11室(4室)
2 リズム室	1室
3 職員室(兼 保健室)	1室

「壱分幼稚園」の施設を「こども園」とした場合の クラス数と受け入れ可能人数(推算)

	認定	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	合計
クラス数		1	1	1	3	2	2	10	10クラス
受け入れ 可能人数 (人)	1号				30 併せて 60	30 併せて 60	30 併せて 60	90 併せて 180	233
	2号				30	30	30	90	
	3号	9	20	24				53	

(仮称)なばた・壺分こども園

クラス数と受け入れ可能人数

	認定	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	合計
クラス数		1	1	1	3	2	2	10	10クラス
受け入れ 可能人数 (人)	1号				30	30	30	90	233
	2号				30	30	30	90	
	3号	9	20	24				53	

年度	園名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
R7 園児数推計 (人)	なばた	9	20	24	16	16	16	114
	壺分				22		22	

22

22

22

なばた幼稚園

	認定	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	合計
クラス数		1	1	1	2	1	1	7	7クラス
想定園児数(人)	1号				16	16	16		
	2号				14	14	14		
	3号	6	10	12					

壱分幼稚園

	認定	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	合計
クラス数		1	1	1	2	2	2	9	9クラス
想定園児数(人)	1号				22	22	22		
	2号				14	14	14		
	3号	6	10	12					

なばた幼稚園

	認定	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	合計
クラス数		1	1	1	1	1	1	6	6クラス
想定園児数(人)	1号				16	16	16		
	2号								
	3号	6	10	12					

壱分幼稚園

	認定	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小計	合計
クラス数		1	1	1	2	1	1	7	7クラス
想定園児数(人)	1号				22	22	22		
	2号								
	3号	6	10	12					

こども園化に向け、必要な施設整備

- 2歳未満の子どもを受け入れるために、
 - ・乳児室又はほふく室を必ず設置
 - 3歳以上の園児と、同じ保育室とするのではなく、2歳児未満用の保育室を準備するということ
 - ・トイレ周りの改修
 - ・調乳室

- 調理室の設置

**「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」で示された再編案に対して提出された追加意見
(R3.6.23 未就園児の集いより)**

①園児の通園の負担及び通園時の安全に関すること

自宅近くの幼稚園へ毎日親子で歩いて登園する時間は大切。自宅に居ても家事等あるため、登園する時間は子どもと向き合う時間である。統合は希望しない。

今、通園は歩いて通える範囲なので、バスに変わってしまうと不要だったバス代が生じてしまう。上の子は歩いて通うことで季節の変化を楽しんで通園していたので、下の子もそうさせたい。

通園距離が長くなると、通園バスがあったとしても急なお迎えとかがあると大変。車も乗らないので。

上の子が小学校にいますので、通園が遠くなるとタイムスケジュールの都合が悪くなる。地域の小学校との連携が公立幼稚園のメリットなのに残念。

通園バスの範囲を広く細やかにしていただければありがたい。

通園はバスでまかなえるかもしれないが、園での参観時などに親子の負担が増えるのはわかりきっている。その負担をなばた側だけが負うのは納得いかない。

壱分と統合されるととても遠くなるので困る。

徒歩5分以内くらいでいける所にバス停を設置してほしい。

通園が遠くなるが、車で送迎してもいいのであれば助かる。

遠くなると時間的に負担が大きくなるので困る。

遠い。バス通園になると親や先生との繋がりが薄くなり、園の様子がわかりにくい。

②再編の環境変化に伴う園児及び保護者への対応に関すること

環境の変化は子どもに負担になるので最小限に。

上の子が通うのに下の子も毎日一緒に園について来るので、自分もここに通うという自覚がでてきている。異なる園に通わせることになるのは反対。

これから通う予定のある子、下の子もいると、同じ幼稚園でないと大変なのでそこも考慮してほしい。

壱分幼稚園はイエローゾーンなので、こちらに来てもらうことももっと検討して欲しい。駐車場もどうにかできると思う。

下の子が入ってこない学年ができるので不安。

人見知り、場所見知りがあるので園児が多いのは不安。

きょうだい慣れ親しんだ幼稚園がなくなるのは子どもにとっても悲しいと思う。

さらに下の子がいるので、卒園までみてもらっても下の子が入園できず、転園は必要になる。途中でひとり転園しなければいけないのは、とてもかわいそう。

幼稚園がなくなるのはさみしい。

在園途中で統合が決まった場合、下の子が入ってくるのか？募集を停止するのか？
統合で園が遠くなって通いにくくなったり、近くの友人が減ってしまうのではないかなどが気になる。

③幼稚園と地域との関係に関すること

地域を離れて遠くへ登園することは地域との繋がりやの継続を難しくする。登降園時に近所の方々と挨拶したり会話するところから地域社会との繋がりが出来ていくのではないかな。

まわりの方とご挨拶等させて頂く中で、やさしく見守っていただいているのを感じる。それがバスなどに変わるとなくなってしまうのがもったいないと思う。

小学校と幼稚園を一緒にするのはこころ辺では見たことがないので、どう変わるのかイメージがわからない。

同じ小学校へ上がる子が多いと思うので、子供同士も安心な部分があると思う。

一緒にするというのは、いずれはそうなるのかなとは思いますが、今は必要性を感じない。反対ではないが。

小学校との連携がとれていれば問題ない。

同じ幼稚園から同じ小学校に入るくらいのコミュニティが良いと思う。

遠くなり、人数が増えると菜畑地域の方々と接する機会が減るのは目に見えている。

④跡地の利活用に関すること

まわりが住宅地ばかりなので、そのまま幼稚園として残しておくのが良いと思う。

幼稚園をなくすのではなく、こども園に変われば良い。

空き地になって人がなく危ない雰囲気になっている元幼稚園がよくある。地域的にも危ないので幼稚園として利用してほしい。

公園のような、何か子どもが利用できる場所を希望。

今後こどもが増えた時に幼稚園やこども園をまた作るのは困難。今ある幼稚園をより良い物にして活用してほしい。

跡地についての具体的な案を示して欲しい。

⑤特別な配慮を要する園児への対応に関すること

具体策が出ておらず、適切か判断できない。

自然も多く、先生方の目も届いている。良いなばた幼稚園のままだが良いと思う。

統合する場合は色々な面でのサポートが必要になる。

いろんな人がいる。一緒に学べる場所を残してほしい。

発達がゆっくりな子の配慮をしてもらえたら、どこでも大丈夫。

少人数制のほうがこまやかに対応できると思う。

その他意見

子どもが家庭から社会へ出る第1歩が幼稚園。近所の方々とふれあい、見守っていただきながら育ち、社会へ出て自立し、自分が得たものをまた社会へ還元させるという考え方が大切だと思う。その為にも幼稚園は小規模で自宅近くであることが大切だと考える。

保護者の意見を伝える会でも出ていた「なばた幼稚園を0～2歳児に力をいれたこども園にする」という案に賛成。壱分幼稚園は3～5歳児に力を入れたこども園にして、お互いの強みにしてはどうかと思う。合併して3～5歳児で60人人数が集まるというのは夢の話だと思う。もちろん少子化の影響もあると思うが、小規模園になっていく以前に私立園などに行ってしまった園児たちを呼び戻せるように対策をしてこなかった市の責任を廃園という形でするのはおかしい。給食や預かり保育の充実など、いろいろ他の園と比べられてしまうのも無理ないと思う。

なばた幼稚園は上の子も通っていてとても良い園だった。もっと地域の人に良さを分かってもらえる様に積極的にアピールしていったらいいと思う。周りに住宅が建ってきているので子どもの数も増えるかもしれない。

人口が減っているからなばたの子どもが少ないわけではないのではないか。バス停が遠くて通いたいけどやめようという声がある。毎日のお弁当は負担、給食の日もあればいいと思います。やっぱり地元の幼稚園に通わせたいと思う。ずっと遠くの私立園に行く人も本当は近くの幼稚園が良いと思っているのではないかな。

入園までに決まって欲しい。

壱分と統合になると、多人数・遠距離でバスが必要になるなど、メリットが感じられない。なばた幼稚園をこども園にして、0～2歳のクラスをつくと良いのではないかな。地域で通う幼稚園小学校を大切にもらうのが市立幼稚園として大切なことではないかなと思う。

新しい住宅開発があり、待機児童もいるのに、なばた幼稚園をなくすことは全く理解ができない。幼稚園のままで二歳に合っていないため児童数が減るだろうがこども園になれば、預けたい人はいっぱいいる。あずかり時間や、お弁当、ホームページのわかりにくさなど、細かい点での不便さも多数あり、私立に通わせる人も多い。

なばた幼稚園をこども園にしてほしい。

なばた幼稚園を無くす必要はない。

(案)

令和 年 月 日

生駒市教育委員会 様

幼稚園再編に係る地域協議会
(なばた幼稚園区)

再編についての意見書の提出について

生駒市教育委員会は、令和2年10月に「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」(以下「基本的な考え方」という。)に基づき、なばた幼稚園と壱分幼稚園を統合し、こども園化する再編案を示しました。

これまで、「基本的な考え方」についての市民説明会、意見交換会などで多くのご意見が寄せられています。なばた幼稚園再編に係る地域協議会は、この再編案について、保護者や地域としての意見を取りまとめ、生駒市教育委員会に対して意見書を提出するために、保護者や地域の代表(資料1 意見書提出時委員名簿)により組織されました。

当協議会は、これまでに●回の協議を経て、下記のとおり意見を取りまとめましたので、提出します。

記

1 協議事項

市立幼稚園の園児数は、近年減少が続き、令和2年度の園児数は平成27年度比で43.6%まで減少し、空き教室も目立つようになりました。園児数の減少により少人数の園では、園児が集団の中で多様な考え方にふれ、試行錯誤する機会が少なくなりやすく、人間関係においても固定化しやすくなる傾向にあると言われています。

このような状況の中、生駒市教育委員会は望ましい幼稚園規模を確保し、幼稚園に関する課題に対応するために、なばた幼稚園と壱分幼稚園を統合し、こども園化する再編案を示しました。当協議会はこの再編案を検討するにあたり、懸念される課題と解決策を検討するため、地域や保護者から意見を聴取し(資料2 意見聴取の概要、資料3 開催経緯)、以下の点について協議を重ねてきました。

- (1) 再編を検討するに当たり、懸念される課題と必要な対応
- (2) 再編に対する修正案や提案
- (3) 方向性をとりまとめるためのその他の検討事項

2 協議会としての意見

- (1) 再編を検討するに当たり、懸念される課題と必要な対応

幼稚園の再編は、園児や保護者に及ぼす影響が大きいことから、生駒市教育委員会が示している「具体的な方策を実施する際に留意すべきこと」について、当協議会で意見を取りまとめました。

①園児の通園の負担及び通園時の安全に関すること

園児にとって通園環境は非常に重要であるため、過剰な負担にならないよう、また、安全に通園できるよう以下の点に配慮すること。

- ・再編により通園バスの運行が必要となった場合は、利用料金の減額や無償化などの公費負担を検討するとともに、その運行経路については、安全を考慮した上で、できる限り利用者の要望に応えること。
- ・保育を必要とする保護者の送迎用駐車場を確保し、路上駐車など近隣住民の迷惑にならないよう考慮するとともに、周辺道路の通行規制の見直しなど自治会や関係機関と協議の上、地域の安全確保に努めること。
- ・徒歩通園を望む保護者の不安を取り除く取組を保育に取り入れること。

②再編の環境変化に伴う園児及び保護者の対応に関すること

再編により様々な環境変化が考えられるため、園児が安心して過ごせる環境を整えるとともに、保護者に対して日々の園生活に関する積極的な情報発信や丁寧な相談対応等、必要な心理的支援を行うこと。

- ・再編の対象となる幼稚園に在籍している園児は、在籍する幼稚園で卒園できるなどの対応を図るとともに、最終年次の園児についても、入園前には情報提供を丁寧に行うなど、保護者が選択できる対策を図ること。
- ・園児が増えたことにより、先生の目が行き届かなくなるといったことがないように、先生の適正配置に努めること。また、感染症対策についても、園児数が増えるため、より一層細やかな対応を行うこと。
- ・園名や制服について考慮すること。
- ・別の園を検討する保護者に対して、丁寧な相談対応を行うこと。
- ・地域の子どもが定員超過で入園できないということがないように、状況を把握しながら再編を進めること。

③幼稚園と地域に関すること

園が地域とともに子育てをする場であることに配慮し、地域や小学校との交流について、積極的に取り組むとともに、なばた幼稚園の周辺地域とも園外活動などを通じてつながりを持つこと。

④跡地の利活用に関すること

幼稚園跡地及び施設の利活用については、市長部局との連携のもと、地域と十分協議した上で、市として総合的に検討すること。

- ・ニーズを的確に把握したうえで、公園、駐車場、学童、子育て支援センター、学習施設等について、民間事業者の活用も視野に入れて検討すること。

- ・放置されることになれば治安の悪化にもつながるので、適正管理に努めるとともに必要に応じて売却も検討すること。

⑤特別な配慮を要する園児への対応に関すること

移動面や教育・保育面において不利益が生じないよう必要な対応策を講じること。

- ・通園等における時間的、経済的な負担について、不利益が生じないよう柔軟に対応すること。

- ・きめ細やかな関わりができるように職員を適正に配置すること。

⑥その他

- ・園児の安全に考慮した建物改修やスケジュール調整などにより、生駒東小学校との幼小一体について実現できないか、検討すること。

- ・壱分幼稚園は、土砂災害警戒区域、土石流のイエローゾーンに指定されている。少しでも危険な区域に子どもを行かせるわけにはいかないと考える。

(2) 再編に対する修正案や提案

なばた幼稚園地域協議会の総意として、原案に反対します。保護者・地域の代表としてなばた幼稚園の存続、またはこども園化を求めます。協議の結果については以下のとおりです。

①なばた幼稚園の存続について

現在なばた幼稚園は地域住民と良好な関係を築いており、周辺住民の生活の質の向上や地域の保護者間の親交に寄与しています。幼稚園の存続は地域で子どもを育てるという生駒市の政策と合致するものであり、なばた幼稚園地域協

議会として園の存続を提案します。なばた幼稚園の主な課題として園児数の減少があげられていますが、預かり保育の充実や給食の実施、教育内容の創意工夫等により、園児数を維持することは可能であると考えます。また、近隣に大規模な住宅開発が予定されているので、早急に結論を出すべきではありません。園の維持管理に費用がかかるのは理解できますが、教育に関する費用については惜しまないでください。

②なばた幼稚園のこども園化について

なばた地区には新しい住宅ができていることもあり、保育の需要は一定数存在すると考えます。また、なばた幼稚園がこども園化することで地域外の園に通っている園児も戻ってくることが見込まれます。なばた幼稚園をこども園化する上で課題としてあげられている駐車場確保については、隣接地に空いている駐車場が存在するため、確保は容易と考えます。教室数や園舎のスペースの課題についても、年齢ごとの人数を調整すれば可能です。

③他幼稚園との統合について

なばた幼稚園の周辺には私立園が数園あります。それら近隣にある私立の幼稚園との統合や、分園としてでもこの場所に幼稚園を残すことを求めます。広い園庭や大型遊具をそのまま活用することができるので、募集を行えば新規事業者の参入もあると考えます。

④東小学校との幼小一体化について

なばた幼稚園の近くに生駒東小学校があります。その空き教室を利用して、幼小一体とすることを求めます。園児の安全を考慮した建物改修や、スケジュールの調整などにより十分に実現可能であると考えます。

⑤その他施設との併設について

高齢者施設と併設することにより、将来的に園児が減少した場合にその施設を高齢者用に転用することができます。民間の事業者を誘致し、今後の人口形態も見据えた施設にすることを求めます。

(3) 方向性をとりまとめるためのその他の検討事項

①市の財政について

生駒市行政改革大綱において、今後5年間で10億円以上の経常経費の削減が掲げられています。高齢化の影響から社会保障経費が毎年度増加しており、市

行政改革推進委員会や市議会からも事業の見直しや経費の削減が強く求められています。しかし、教育に関する費用は財政面の比較検討ではなく、当事者（子ども、保護者など）目線での検討内容とし、未来の生駒市のために必要な経費と考えてください。

②市の公共施設削減について

国においては公共施設の適正管理の推進を求めており、市は昭和50年頃に建設された公共施設が多く存在し、今後多額の改修・更新費用が必要となることが見込まれることから、「生駒市公共施設等総合管理計画」「生駒市公共施設マネジメント推進計画」を定め、令和4・1年度末までに24.5%の延床面積の削減目標を掲げています。しかし、なばた幼稚園は（2）に挙げたように、あらゆる方向で検討し、存続することを希望します。

③子ども・保護者への影響について

0～3歳児については保護者が送迎することになりますが、壱分幼稚園の場所にできるこども園に通園となると、なばた地区の多数の家庭で目的地とは逆の方向に向かうことになります。北方面へ移動する車が多く、利用駅も生駒や東生駒であることが多いからです。

④基本的な考え方・原案について

あり方検討委員会で決定された「基本的な考え方」については、作成の過程で地域住民や自治会への通知がありませんでした。原案は幼稚園の削減・再編を前提として作成されたものであり、なばた幼稚園の地域協議会としては、そのような決定方法で作成された案については到底納得できるものではありません。

資料1

意見書提出時委員名簿

区分	氏名	所属団体・役職等
学識経験者	森 本 正 一	元学校長
育友会	川 上 寛 晃	育友会長
	長 谷 川 良 子	育友会
	富 名 腰 知 保	育友会
民生児童委員	森 康 則	民生児童委員
学校評議員	今 谷 真 理 子	学校評議員
	桐 生 馨	学校評議員
	鈴 木 義 則	学校評議員
地域	城 山 英 章	地域住民
	福 井 敏 雄	地域住民
スクールボランティア	井 上 良 作	スクールボランティア
	井 村 幸 子	スクールボランティア
幼稚園	中 森 幾 久 子	なばた幼稚園長
行政	坂 谷 操	教育こども部次長

事務局

生駒市教育委員会事務局教育こども部こども課

資料 2

意見聴取の概要

1 意見聴取の方法

(1)なばた幼稚園再編に係る地域協議会参加団体による意見聴取

①意見聴取票による意見聴取

なばた幼稚園保護者、なばた幼稚園未就園児保護者、民生児童委員

②その他

電話、FAX、封書等

(2)市教育委員会(こども課)参加による意見交換の場による意見聴取

① NPO 法人市民の輪いこま

令和3年4月16日(金)午後3時～

2 意見聴取の期間

令和3年1月28 日(第1回地域協議会)～

3 意見聴取した件数 (令和3年6月11日時点)

合計37件

意見聴取票による聴取 30件

その他 7件

資料3

開催経緯

	開催日時	主な協議事項
第1回	令和3年1月28日(木)午後3時	・「基本的な考え方」に対するこれまでの意見と課題整理について ・各関係者等からの意見聴取について ・今後のスケジュールについて
第2回	令和3年3月26日(金)午後3時	・原案に対する意見の共有と整理について ・原案に対する追加意見について ・原案に対する意見を踏まえた課題の整理について
第3回	令和3年5月17日(月)午後3時	・こども園(南こども園)について ・原案に対する追加意見の共有について ・原案に対する意見を踏まえた課題と考えられる対応について
第4回		
第5回		